

ニホンナシ新品種候補 ‘鳥園 L’

1 新しい品種候補の内容

(1) 背景・目的

ナシの新品種育成は本県の梨産業振興を図る上で重要であり、園芸試験場はこれまでに‘新甘泉’（2008 年登録）等の品種を育成し、生産者の所得向上や地域活性化に貢献してきた。しかし、2009 年の‘秋甘泉’品種登録から 17 年が経過し、生産者からは産地復興の起爆剤となる次なる新品種の登場を期待する声が高まっていた。

この度、‘二十世紀’の収穫後（9 月中～下旬）に収穫可能な青ナシ系統を選抜し品種登録出願したので紹介する。



図1 「鳥園 L」の果実（無袋栽培）

(2) 情報・成果の要約

9 月中下旬に収穫可能な高糖度で果実肥大に優れる青ナシである。無袋でもサビの発生は少ないが、果点がやや目立つ（図 1）。樹勢は強く、樹冠拡大は容易である（表 2）。

2 試験成果の概要

(1) 育成経過

2002 年に「あきづき」の自然交雑果実から得られた実生群の中から、12 年間の場内調査を経て選抜した。2022 年から現地試験（41 園）を開始し、2023 年から 3 年間検討する予定であったが、2024 年 10 月に開催した 2 年目の意見交換会で現地試験園主から高い評価を受け、品種登録への要望も強かったため、1 年前倒しして品種登録への手続きを進めることとした。

(2) 樹体の特性

- 1) 開花は「二十世紀」より 2 日程度遅い（表 1）。自家不和合性のため、人工受粉が必要である。「新興」「長十郎」の花粉は使用可能である。
- 2) 樹勢は強く、樹冠拡大が容易である（表 2）。
- 3) えき花芽の着生が良く、短果枝花芽の維持も容易である（場内の原木・苗木育成樹における所感）（表 2）。

(3) 果実品質

- 1) 果重 530g、糖度 13.6°（2022～2025 年の 4 か年平均）である（表 2）。酸味は‘二十世紀’と同程度である。
- 2) 果皮色は黄緑。無袋でもサビの発生は少ないが、果点がやや目立つ（図 1）。
- 3) 収穫時期は 9 月中下旬（表 1）。冷蔵すれば 1 か月以上は貯蔵可能（常温では 20 日程度）である（表 2）。

(4) 病害虫

- 1) 黒斑病抵抗性であるが、黒星病には罹病性がある（慣行防除で対応可能）。

表1 ‘鳥園 L’の樹体特性

調査年	開花期			果実	
	始	満開	終	収穫始(満開後日数)	収穫終(満開後日数)
2022	4/11	4/12	4/18	9/13(154)	9/26(167)
2023	4/3	4/5	4/12	9/12(160)	9/19(167)
2024	4/12	4/14	4/17	9/16(155)	9/23(162)
2025	4/12	4/14	4/18	9/19(158)	9/30(169)

(参考:2025 年のゴールド二十世紀)

z:GA 無処理の果実の収穫始

4/8 4/11 4/18 8/27^z(138) 9/9(151)

表2 ‘鳥園 L’の樹体・果実^z特性(2022～2025 年の平均値)

樹勢		短果枝の 着生	えき花芽 の着生	果重 (g)	糖度 (°Brix)	果肉硬度 (lbs)	pH	玉揃い	さび	日持ち ^y
鳥園 L	強	多	多	530	13.6	4.9	4.65	良	やや少～少	20

z: 果実については、全て無袋果実での評価。
y: 日持ちについては、2023～2025 年の評価。

3 普及の対象及び注意事項

- (1) 普及の対象
県下全域のナシ栽培地域
- (2) 注意事項
 - 1) ‘鳥園 L’は品種登録出願中である。(出願公表日：2025 年 8 月 28 日、品種登録出願番号：第 38044 号)
 - 2) 夏季に葉焼けの発生が見られる場合があるが、樹勢への影響は確認されていない。

4 試験担当者

果樹研究室 研 究 員 長谷川 諒 (現 東伯農業改良普及所 改良普及員)
主任研究員 米村 善栄 (現 園芸試験場 次長)
室 長 前田 英博 (現 農業大学校 教授)
室 長 井戸 亮史
研 究 員 山田 高之
研 究 員 小山 未来 (現 退職)
研 究 員 濱上 彩